AG5だより

日本人学校・補習授業校を応援します！

在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業（https://ag-5.jp）

補習授業校の先生方を対象としたオンライン初任者研修（2）

ＡＧ５運営指導委員・東京都立大学教授　岡村郁子

ＡＧ５プロジェクトでは、2020年6月から2021年3月にかけて、比較的経験の若い補習授業校の先生方を対象にオンライン会議システムを使った初任者研修を開催いたしました。ＡＧ５初の試みとなる初任者研修会には、初任者の方々はもとより、各校で研修に当たられる管理職の先生方など世界中から各回60名にのぼる先生方にご参加いただき、おかげさまで好評のうちに終了いたしました。今月号では、12月号でご紹介した第１～３回に続き、第４回「すべての子どもたちの日本語力向上を目指して」と、第５回（フリーディスカッション）の内容と成果についてご報告いたします。

【研修の目的】

（1）補習授業校の概要やその教育の特質を知る

（2）授業を計画、実施、評価、改善する基本を習得する

（3）様々な子どもたちがともに学ぶための支援・指導の基本を習得する

【研修内容と日程】

第一回　二〇二〇年六月二日（火）
「補習授業校とは」佐々信行・岡村郁子（ＡＧ５運営指導委員）

第二回　二〇二〇年七月八日（水）
「授業づくり～学習計画の立て方、教材研究、評価」佐々木常広（ダラス補習授業校副校長）、渋谷真樹（ＡＧ５運営指導委員）

第三回　二〇二〇年九月三日（木）
「授業実践～教え方の工夫」佐藤恵美（ダラス補習授業校・ＡＧ５コーディネーター）、雨宮真一（ＡＧ５研究員）

第四回　二〇二〇年十二月七日（月）
「すべての子どもたちの日本語力向上を目指して」近田由紀子（ＡＧ５運営指導委員）、今澤悌（ＡＧ５研究員）

第五回　二〇二一年三月二日（火）
「フリーディスカッション」全員

第四回「すべての子どもたちの日本語力向上を目指して」

補習授業校の最大の特色は、日本語力の異なる子どもたちを、一つの教室で同時に指導する点にあります。こうした状況においてどのような支援・指導が有効であるのか、ＡＧ５補習授業校チームより、近田委員（目白大学専任講師）と今澤研究員（甲府市立大国小学校）が講義を行いました。

まず今澤研究員より、「教科学習を通した日本語力の向上～『日本語力に課題のある子』に焦点をあてて～」と題してのお話です。

通常の日本語会話に支障がないように見えても、学習となると理解が難しいということがありますが、これは「生活言語能力」と「学習言語能力」が異なることに起因します。「生活言語能力」は「基本的対人伝達能力」(BICS: Basic Interpersonal Communicative Skill)ともいわれ、自然習得が可能であり、通常一～二年で習得されます。これに対して、学習に必要な「学習言語能力」は自然習得が不可能で、組織的な学習が必要とされ、習得には五～七年かかるといわれています。これは「認知学習言語能力」(CALP: Cognitive Academic Language Proficiency)ともいわれ、認知的な力、思考力・判断力・表現力を含みます(Cummins, 1984, 1986)。

日本語力に課題のある子どもたちの授業におけるつまずきの多くは、学習の中で、日常会話（生活言語）に出てこない語彙・表現（学習言語）が出てくることや、学習経験がないことによるものです。また、海外に暮らす子どもならではの生活経験や文化の違い、生活環境の違いも影響しています。このような子どもたちを指導するために、以下の二つの提案がありました。

①「教科の目標」と、「日本語の目標」を明確に立てること

○「教科の目標」＝「教科としてのどんな力を、どこまで高めるのか」

○「日本語の目標」＝「教科の目標を達成するためにはどんな日本語の力が必要か」

この二つの目標について、ＡＧ５の研究授業（ワシントン日本語学校福嶋先生の実践）を例に説明したのが、次ページのスライドです。気持ちの変化を想像できる。」という「教科の目標」とともに、それを達成するための「日本語の目標」、すなわち、「はじめ～だったおじいさん（の気持ち）が、だんだん（少しずつ、ゆっくり）～になりました（変わりま

した)。」の表現を使って人物の気持ちの変化をとらえ、それを表現できる」という点が明確に示されていることが分かります。ここで重要なのは、国語だけでなく、算数(数学)や社会科においても、目標にする語彙や表現を具体的に示すことです。

②言葉に配慮した支援の工夫を行うこと

二点目として、日本語の力に課題がある子どもたちに対する二種類の「支援」について説明がありました。

○理解(を促す)支援

写真やイラストを使って語彙や表現の理解を助ける【下図】、絵本や映像によって学習課題・学習内容を理解させる、テキストを段落ごとに線で囲んで視覚的に分かりやすくする、本文を紙芝居型にして興味を喚起する、本文(さし絵等)を段落ごとにバラバラにして並べかえる活動を通して理解を促す、ワークシートにして心の変化を理解するなど、これまでのAG5の研究授業の例が示されました。教科書の本文を児童に分かる日本語に直して理解させる「リライト」も、理解の支援に有効です。市販のリライト教材も出ています。

○表現(を促す)支援

書くことの表現支援では、ワークシートの活用があります。どこに何をどんな文章で書けばよいのかはっきり分かるように、また表現モデルを示してそれを参考に書けるように工夫します。

今年度多かったオンライン授業のブレイクアウトルームでは、子どもたちのグループでの話し合い活動(ブレイクアウトセッション)の際に、「話し合いの流れ」と、その場面で「何を発言すればよいか」の話型(表現モデル)を示したカードを持たせます。これにあてはめて発言することで、日本語力が十分ではない子どもたちも自信を持って話し合いに参加できるようになります。

最後に、補習校の一斉授業で行える授業の工夫五点が示されました。

①教師が授業で使う言葉に配慮する。＝やさしい日本語、分かりやすい言葉で、ゆっくり話すこと。

②本時の目標に関連の薄い事柄については、負荷を下げる工夫を＝ワークシート、資料、板書等の漢字にルビをふる、目標に絞ったリライトをする、等

③具体物や絵、図、表など、言葉以外の情報を豊富に。

④大切な言葉、発問、キーワード等を板書やカードで視覚化＝線や色で分かりやすくする。

⑤個に合った課題や活動を準備する＝ワークシート、ペアワーク等

続いて近田委員より「チャレンジ編」としてお話がありました。

補習授業校の教室においては、日本語力が様々な子どもが一緒に学習します。このことは一見するとデメリットのようですが、実は、日本語力の十分でない子どもたちはもちろん、日本語力が高い子どもたちにもメリットがあります。グローバルな環境で学ぶ子どもたちだからこそ持っている「よさ」を活かして、「互いに学び合う」ことができるからです。この考えに立つと、教師や日本語力の高い子どもたちが、日本語力の十分でない子どもたちに「日本語を教えてあげる」というスタンスが誤りであることが分かるでしょう。

それでは、補習授業校の子どもたちの「よさ」とは、どのようなものでしょうか。永住・国際結婚の家庭の子どもたちは、現地校で身につけた学び方・スキル・感性、現地の情報収集力等を身につけています。一方、短期駐在家庭の子どもたちは、日本で身につけた学び方・スキル・感性、日本語力等を持っています。こうした多様な子どもたちが持つ「よさ」を活かして学び合うことは、補習授業校ならではのメリットといえます。

補習授業校は自分とは違った感性・価値観・考え方との出会いの場

目標を明確に立てる

小3「三年とうげ」(ワシントン日本語学校 福嶋先生実践)

① 教科の目標

「*気持ちの変化を想像* できる。」

教科の目標を達成するためには、どんな日本語の力が必要か

その日本語を使って、「何をできるようにさせる」のかを明確に

② 日本語の目標

目標にする語彙や表現を具体的に

「はじめ～だったおじいさん(の気持ち)が、だんだん(少しずつ、ゆっくり)～になりました(変わりました)。」の表現を使って人物の気持ちの変化をとらえ、それを表現できる。

理解支援　写真やイラストで語彙や表現を理解

です。どちらかが教え、教わるのではなく、多様な見方・考え方を「対等に学び合う」ことから、「主体的・対話的で深い学びが生まれるのです。

多様な子どもたちのいる教室での学びには「総合学習型」の活動が合っています。国・地域のカリキュラム・リソース、現地校で習得したスキル、幅広い知識・現地の情報などを積極的に活用する総合学習型により、日本語力向上を目指すことができます。創造性を発揮できる学習活動を構想すること、自分とのかかわりから課題をつかみ主体的に探究するしかけを作ることが、教師の重要な役割といえるでしょう。

こうした活動の実践例として、これまでのAG5による学習活動が示されました。その一つが、ダラス補習授業校で行われた「発見！　わたしたちのテキサス」です。この実践では、自分たちの住むテキサスについて、家の人たちの協力を得ながら、地理・歴史・産業などの各分野からの地域情報を集めました。それをポスターにまとめ、現地校で身につけた表現力を駆使して発表し合いました。子どもたちの感性を活かした学び合いを通して、学習を深めたり広げたりすることができた例です。もともとの社会科のテキストでは、日本の地域が取り上げられていますが、それに代えて今住んでいるアメリカを取り上げることで、現地校での学びと関連づけて学習することも可能になりました。

第四回の二つの講話から、補習授業校の特色をメリットとして活かし、すべての子どもたちの日本語力を向上させる教室活動のヒントを得ていただけたことと思います。なお、ここで示した学習指導計画は、AG5の『楽しく日本語を伸ばす補習授業校学習活動計画集～ダラス補習授業校の実践から～』に収録されています。以下のQRコードからダウンロードしてぜひご覧ください。

第五回「フリーディスカッション」

最終回は四回の研修のテーマ別に、以下の四つのセッションに分かれてディスカッションを行いました。

①補習校の「びっくり」～うちの学校、こんなにいろいろ＝各補習授業校の様子についての情報交換、補習校調査の結果についてのコメント・感想など

②授業準備の方法～学習指導計画、どうやって立てていますか？＝学習指導計画の立案方法、学習への動機づけ、学習指導要領についてなど

③授業を進める技術～授業スキルをアップして子どもたちの心をつかもう＝授業の目標設定、効果的な授業スキルの具体例についての情報交換など

④日本語力の違いへの対応～全員の日本語力を伸ばす授業を目指して＝日本語力の違いのある子どもたちの指導の工夫、国際学級の進め方など

七つの分科会に分かれて各回の講師を交えて活発な議論が行われ、短いながら有意義な時間を過ごすことができました。

最後に、研修終了後にお答えいただいたアンケート結果を少しだけご紹介いたします。

＊一年の大半がオンライン授業という状況で、各国の皆さまがどういう風に授業をしていらっしゃるかということを感じることができるのは大変心強く、モチベーションとなりました。

＊コロナ禍で大変な中、貴重な研修に参加させていただきありがとうございました。他の補習校の先生方も同じように悩みながら授業を組み立てているということが分かり「一人じゃない！」と思いながら毎週授業を行うことができるようになりました。日本語が苦手な子でも、発言の機会を与えることで自信につながり日本語に興味を持ってもらえるような授業を行っていけるようにこれからも様々なアプローチに取り組まなければ、と感じています。

今年度の初任者研修にご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。初任者の先生方はもとよりベテランの先生方がオンライン上で一堂に会し、よりよい授業とは何かをともに考え、学ぶ機会を持てたことを、たいへん嬉しく存じます。また、オンラインで世界の補習授業校を巡る「学校紹介コーナー」には全十七校にご登場いただきました。ご協力に心より御礼申し上げます。

本研修は次年度も継続いたします。授業作りの基本、子どもたちの興味をひきつける工夫、模擬授業や授業の具体的なアイデアなどを用意しておりますので、ぜひご参加ください。AG5補習授業校チームでは、このほかにも、授業研究会、情報交換会、ワークショップ等の活動を通じて、先生方へのご提案とネットワーク作りを続けて参ります。引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。